

1. 産業のあゆみ

◇加賀藩にまつわる産業

小松を発展させたのは、加賀前田家三代前田利常(1)だといわれている。利常は工芸工房である「御細工所(2)」をつくり、五代綱紀(3)の頃にかけて整備された。また、加賀絹(4)を勸業奨励した。

(1) 前田利常

加賀前田家三代。小松が誇る貴重な文化遺産や産業の礎を築く。利常は加賀藩歴代藩主の中でも名君と呼ばれ、特に晩年、小松城での19年間にわたる業績には、とても大きなものがある。

利常は、美術工芸や茶道・能などにも深く通じていたことから、城の増築、お寺や神社の造営と、美術工芸を中心に当時の名人・名工と称せられる人々を数多く小松に招いた。

産業分野においても、九谷焼・瓦・茶・畳表・加賀羽二重(絹織物)などの生産を奨励した。



(2) 御細工所

加賀前田家三代利常から五代綱紀の頃にかけて整備された。当初は、武具等の管理・修復が主な仕事であったが、藩主のさまざまな道具類も細工するようになる。具足のほかに絵細工、漆工、象眼、鍛冶、各種金具など。町方の職人も登用し、御細工所で磨かれた高度な技術が、加賀文化を築き上げた。

(3) 前田綱紀

加賀前田家五代。四代光高の急死により、3歳で家督・遺領を相続する。祖父利常に養育された。綱紀は全国から著名な学者や芸術家を招き、学術の振興にも意を注いだ。なかでも、朱子学の木下順庵・室鳩巢・稻若水など当時の日本を代表する学者や名工を招き、彼らを利用して殖産興業や芸術振興を図り、塩や絹織物などの各種の産物育成や加賀藩細工所の運営にも尽力した。また、芸能においても、綱紀は武家の式楽である能を保護した。

※式楽…公儀の儀式に用いる音楽や舞踊のこと。

(4) 加賀絹

小松で加賀絹は発祥したといわれている。4世紀の雄略天皇時代の時代に蚕桑と製織技術を習得し、天皇家へ奉獻した。そして、室町時代に將軍足利氏へ献上したことから加賀絹の名声が高まり、慶長年間には武士の流旗に使われた。その基盤の上に、利常が小松を機業地として勸業奨励したことによって、その後隆盛を見る。

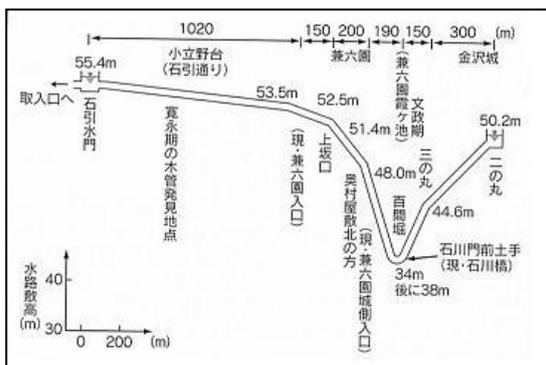
2. 辰巳用水を完成させた 板屋 兵四郎 (『ふるさと小松の人とこころ』より)

◇略歴

- ・生年不詳～承応2(1653)年
- ・小松の町人で、もとは下村と名乗り、父藤兵衛の時、大坂より小松本折へ引っ越す。
- ・寛永9(1632)年、加賀前田家三代利常の命により、辰巳用水の工事を完成させる。
- ・寛永17(1640)年、越中(富山県)の常願寺川の秋ヶ島用水の工事を指導する。
- ・能登の小代官として、製塩の指導に携わる。



◇辰巳用水の工事



辰巳用水は、金沢の町はずれから約8km離れた上辰巳で犀川の水を取り入れ、金沢の町中を流れ、兼六園の中を流れて、金沢城内に水を引入れた水路であり、町を火事から守り、兼六園の曲水や池を作り、農業用水としても使われた重要な生活用水である。

この工事は難工事で、優れた技術や水路の長さ、1年という工事期間の短さなどから、箱根用水、江戸の玉川上水とともに、江戸時代の三大水路工事の一つと言われている。

兵四郎は町人だったが数学が得意で、測量技術にも優れていた。兵四郎はまず地形を調査し、金沢の高台にある城に水を引くには城より高い犀川上流から取り入れるのがよいと考えた。工事用の機械もない当時なので、すべて人力である。鍬やつるはしを使い、のみ等で掘るといふ作業だった。掘った横穴にろうそくをたくさん立て、それを重ね合わせて観測しながら、方向や高さを求めていった。技術者9名と能登の鉱山専門家や地元の人々を雇った。早く完成させるため、昼夜休みなく突貫工事をした。そのために1日4回も食事をとらせたので、「四度めし」とも言われている。

兵四郎が使った導水管は木製の物だったが、それから約180年ほど後の文化年間(1804～1818)には、取り入れ口が130m上流になり、木製ではなく、石をくり抜いて造った管が使われた。その1部は、小松市立博物館の前に置かれている。

◇板屋兵四郎暗殺説

辰巳用水を完成させた兵四郎は、「城の内部のことを外へ漏らされたら困る」「他国へ行って城の秘密をばらされたら困る」「町人がこの大事業を成し遂げたと言われたら武士の面子が立たない」等の理由で暗殺されたという説がある(史実は病没)。寛政11(1799)年の大地震で用水が壊れたのは、兵四郎のたたりだとも言われたそうであり、そのためか、地元住民や工事で雇われた人々が、兵四郎を祀って八幡板屋神社としている。

3. 地域おこしに尽くした十村役 石黒 源次

(『ふるさと小松の人とこころ』より)

◇略歴

- ・享保19(1734)年～文化7(1810)年
- ・遊泉寺山で金山・銅山を発見した。
- ・安永元(1772)年には、金平金山の開発責任者となる。
- ・手取川の改修工事に尽力する。
- ・加賀前田家三代利常の奨励によってお茶の生産に励み、今日の特産のもとをつくる。



◇石黒家

十村役とは、前田利常が制定した農政制度(加賀藩独自)で、いくつかの村(数村～数十村)の組をつくり、そこを治める役を与えたもの(石黒家は25の村を支配していたといわれている)。先祖は能美郡西俣村(現小松市西俣町)出身で、利常に従って大坂の陣(慶長20(1615)年)に参加、戦死したとされている。4代から下流の沢村に移住し、農民をまとめる村役人として十村役を代々務めた。5代源丞は、加賀藩と幕府領との境(尾小屋・西俣と新丸地区)の地図を作ったり、朝鮮人参の苗を藩から譲り受けて栽培に成功したりした。沢村の源次は7代で、石黒を名乗ることが許された。

現在、金野町に住む石黒家には、家のことやどのような仕事をしたのか等を記した古文書が1,373点も残されており、市指定文化財になっている。

◇鉱山開発



金平金山絵巻の一部

石黒源次は、金山や銅山の発見・発掘は大事業で、金平には他国から多くの人々が集まり、別世界を作り上げた記録されている。鉱山の絵巻物(絵図)も残されているように、金や銅の生産だけでなく、金平地区を賑わいのある地域にした。決まりを破る者に対する取り締まりは源次に任されており、権力も大きいのが、真面目に努力する人だったという。肖像画では、落ち着いた着きのある、物静かで、教養ある雰囲気(ふんいき)を漂わせている。加賀藩からの任命書も多く、重大な役目をこなしていくためには、人々から信頼されるよう自分を磨いたことが想像される。

◇金比羅さんの奉納石灯籠

讃岐(香川県)の金比羅さん(金刀比羅宮)には、北前船の船主でもない石黒源次によって、石灯籠が奉納されている。

多太神社に伝えられている「蛸乃飛加里」という古文書によると、源次は、埴田村の十村半助と遊泉寺山で銅山を発見して、安永5(1776)～6年頃大いに栄えたという。小松産の金・銅を梯川より安宅へ、湊から海上を大坂へ運び、それを販売して利益をあげ、その帰り道、航海の安全、商売の成功に感謝して奉納したと考えられている。



奉納石灯籠

4. 銀行業に力を尽くした こめたに はんぺい 米谷 半平父子 (『ふるさと小松の人とところ』より)

◇米谷家

安宅の河口にある米谷家は、代々廻船問屋で、北前船を使って米・塩・雑貨などを北海道へ運び、帰りにはニシン・シメカス・カズノコなどを積んで、瀬戸内海、関西方面へ運び、それを売る仕事をしていた。また、「半平」という名を継ぐのが習わしだった。

◇廻船問屋から米谷銀行を開設した 6代 米谷 半平

6代目米谷半平は、嘉永4(1851)年に安宅に生まれた。家は金持ちで、大地主だったが、食事は使用人と同じものを食べ、「一本のわらしでも粗末にすべきではない。生かして使えばまた縄として役立つ」と話すほどの儉約家だったが、安宅町で弘法様のお堂を建てる話が出たとき喜んで自分の土地を差し出すような人物でもあった。



明治中頃になり、船に代わって鉄道が発達してきたので、廻船問屋をやめて銀行をつくった。金沢に「かわせ為替会社」、大聖寺に「融通会社」の金融機関ができたのに、小松にないことに気づき、明治24(1891)年に「合資会社米谷銀行」を開設した。そして、大正8(1919)年、増資して「株式会社米谷銀行」と改め、さらに大正15(1926)年に、他銀行と合併して「かのうごうどうぎんこう加能合同銀行」とした。明治32(1899)年には、貴族院多額納税議員として、国政にも尽力した。

◇北國銀行初代頭取 7代 米谷 半平



7代半平は、明治25(1892)年に生まれ、京都大学卒業後、父とともに銀行業に力を尽くした。

米谷銀行から加能合同銀行に生まれ変わった時から頭取を務めた。その後、昭和18(1943)年、一県一銀行主義の国策にそって、加能合同・かしゅう のうわ加州・能和の三銀行が合併して、北國銀行ができたときも、半平は初代頭取を務めた。

半平の長身にして貴公子然たるところが、どこか^{この え みみくら ふうぼう}近衛文麿の風貌に似ており、いかにも銀行の頭取といったタイプだった。極めて手堅く慎重に事を運び、

財界の表面に立たず、常に頭取室に収まっていたが、中央・地方各方面の事情には通じていた。それだけに金沢の財界をよく知り、できる限りの世話をした。

戦争中の厳しい統制、爆撃による大阪支店の焼失、銀行員の不足や、敗戦後の経済混乱と闘いながら、昭和21(1946)年、54歳で亡くなった。



北國銀行の安宅支店として使われていた吉祥庵 きっしょうあん

5. 小松製作所(現:コマツ)の創業者 たけうち めいたろう 竹内 明太郎

き かんさんぎょう いくせい り こうがくきょういく そくせき
基幹産業の育成と理工学教育に大きな足跡を残した人

◇略歴・業績

- ・万延元(1860)年2月28日高知県宿毛町に生まれた。
- ・第二次世界大戦後の内閣総理大臣・吉田茂は竹内明太郎の弟。
- ・竹内明太郎は、工業化こそが近代日本の発展に必要と考え、炭鉱事業をはじめ、それに関連した小松製作所(現コマツ)などの経営にあたった。
- ・明太郎は26歳のとき、父の綱から鉱山の経営を任された。鉱山経営は、当時燃料の代表だった石炭や、銅などの金属を掘り出す仕事だが、工業が盛んになりはじめていた日本にとって、その工業を支える鉱山経営は、重要で大きな商売だった。
- ・明太郎は北陸や九州に鉱山を持ち、順調に事業を拡大させたが、その中で、鉱山での仕事に使う工作機械をつくることも始めた。
- ・石炭や金属はいつか掘り尽くされてしまうことを分かっていた明太郎は、鉱山が閉鎖されても地元の人々が困らないように、鉱山の地でこの事業を始め、機械産業を根付かせようとした。



現在、明太郎が経営した鉱山はすべて閉鎖されているが、その地で始まった工作機械をつくる事業は、産業用機械の開発製造をリードする会社として、唐津炭田の芳ノ谷炭鉱の経営に始まり、竹内鉱業株式会社を創設して遊泉寺銅山(石川県)、茨城無煙炭鉱(茨城県)、橋立金山(新潟県)、大夕張炭鉱(北海道)など各地の鉱山を経営し、今もなお発展を続けている。ブルドーザやショベルカーで有名な「コマツ」もそのひとつである。



遊泉寺銅山銅山跡記念碑

- ・唐津鉄工所の創業者でもあり、日産自動車の前身の快進社等を設立した。
- ・早稲田大学理工学部設立の時には多額の寄付をし、私費で育成した研究者すべてを教授として送りこんだ。また地元高知には父綱とともに高知県工業高校(現県立高知工業高校)を設立した。
- ・政治家としても活躍。大正4(1915)年、第12回衆議院議員総選挙に立憲政友会(高知県那部区)から出馬して当選し、2期務めた。
- ・昭和3(1928)年3月25日、肺炎で亡くなった。享年68歳。

6. 世界のホテル王 ^{いぬまる てつぞう} 犬丸 徹三 (『ふるさと小松の人とこころ』より)

◇略歴

- ・明治20(1887)年～昭和56(1981)年
- ・石川県能美郡根上村字福島(現・能美市)に生まれる。
- ・芦城小学校高等科、旧制小松中学校(現・小松高校)卒業。
- ・明治43(1910)年、東京高等商業学校(現・一橋大学)卒業後、満州鉄道経営のヤマトホテル(現・中国東北部)にボーイとして就職する。その後、上海やロンドンのホテルで料理人として働き、アメリカへ渡って実務も身につける。
- ・大正8(1919)年に帰国し、帝国ホテル副支配人に就任。
- ・大正12(1923)年、同ホテル支配人に就任。
- ・昭和20(1945)年、同ホテル社長に就任。
- ・昭和34(1959)年、^{らんじゅほうしょう}藍綬褒章受章。
- ・昭和38(1963)年、オリンピック選手村給食準備委員会委員長として采配をふるう。トップホテルマンとして、南カリフォルニアASTA支部会員により表彰される。



昭和30年犬丸社長胸像除幕式

◇^{ざせつ}挫折と武者修業

常に勤勉で成績優秀であった徹三だが、東京商業学校在学中に、^{しょうかく}商科大学昇格問題に絡んだ事件で急速に学問に対する情熱を失い、学校は休みがちで禅と読書と政治演説に力を入れるようになった。そのため、やっと卒業はできたものの思うような就職先がなく、夢見た外交官試験も心から去り、ホテルのボーイからのスタートだった。しかし、徹三は、^{れつとうかん}劣等感におそわれながらもこの道で大成しようと決意し、世界のホテルで修行を積んだのである。その努力の成果は帝国ホテル会長大倉喜八郎によって見出され、帰国後は帝国ホテルの^{ちゆうすう}中枢にあって、日本の近代ホテルの基礎を築いて行くのである。

◇業績

大正12(1923)年、徹三が支配人就任直後に、関東大震災が発生した。激震の中、調理場に駆けつけたが、火が消えないため、中央電源を切り、ホテルは^{さんじまぬが}惨事を免れた。徹三は、避難民に食料を無料で提供し、新聞社や会社、各国大使館に空き室を開放するなどして、^{じんりょく}救援活動に尽力した。この^{こうせき}功績で、英・仏・伊の三国から^{くんしょう}勲章を受けた。

帝国ホテルの社長に就任した徹三は、外国の政治家や芸術家などの^{せつたい}接待を通して民間外交を展開し、海外でも「ミスター・イヌマル」として知られ、外交官も及ばないほど国際親善に努めた。

時代の流れを読むことに長けていた徹三は、規模拡大路線を探り、ホテルが国民生活に溶け込む基礎を整備した。大衆化の看板は料理だった。昭和33(1958)年、帝国ホテル新館に上質のバイキング料理を出すレストランを開業したが、これが一世を^{ふうび}風靡した。また、ディナーショーなど欧米風のスタイルを取り入れたほか、式と披露宴をあわせた日本独自の「ホテル結婚式」は徹三の考案で全国に広まったのである。

7. 日銀総裁として戦後を支えた あら き えいきち 新木 栄吉 (『ふるさと小松の人とところ』より)

◇略歴

- ・明治24(1891)年～昭和34(1959)年
- ・小松町東町の宮大工・新木徳太郎の長男として生まれたが、機業を営む叔父・新木長助の養子となる。
- ・小松中学校から第四高等学校、東京帝国大学へと進み、卒業後は、日本銀行へ入行する。大正11(1922)年と昭和10(1935)年の2回にわたり、ニューヨーク代理店に駐在する。
- ・昭和20(1945)年10月、第17代日本銀行総裁に就任する。
- ・昭和27(1952)年6月、戦後初の民間人駐米大使としてアメリカに赴く。
- ・昭和29(1954)年、再度、第19代日銀総裁に就任する。



◇きんげんじつちよく 謹厳実直 できまじめな石川県初の日銀総裁

終戦直後(昭和20(1945)年)の激動期に第17代日銀総裁に就任した栄吉は、新しい円の切り替えなど、金融界に山積する諸問題の解決に努力する。しかし、その矢先に、公職追放に合い(かつて王兆銘政権時代に日銀在籍のまま経済顧問として政権の経済政策を牛耳っていたとの理由)、日銀を退職することになる。

追放解除後の昭和26(1951)年に、設立されたばかりの東京電力会長の要職にあったが、昭和27(1952)年6月、戦後初の民間人駐米大使としてアメリカに赴いた。アメリカの事情に詳しく、アメリカ財界人の信望もあった栄吉は最適任者だった。しかし、栄吉の無類の実直さと潔癖な考え方は、時として外交の立場で政府のそれと相いれない面も生じ、昭和28(1953)年12月に辞任する。

昭和29(1954)年に第19代日銀総裁に返り咲いた栄吉は、景気調整に公定歩合政策を取り入れるなど諸改革に取り組んだ。昭和31(1956)年、日銀総裁室で執務中に倒れ、その2年半後の昭和34(1959)年2月1日に帰らぬ人となった。享年67歳。当時、日本を代表する経済通と称されたが、彼の真骨頂は高潔な人柄にこそあったといわれている。

◇とっこう 徳行の士

「世に功名を競う人は多いが、徳行の士は実に少ない。世の治まらぬ所以の根本は、ここに存するのである。故に徳風ほど長く人を敬慕させるものはない。新木栄吉先生は、誠に徳行の士の典型であった」

これは、芦城公園にある栄吉の顕彰碑の碑文に刻まれた山際正道(栄吉の後任で日銀総裁となった人物)の言葉である。若い頃からよく学びよく手伝いをする模範的な学生で、中学在学中は特待生として授業料が免除される恩典を受けるほどだった。このような栄吉の徳行を伝えるエピソードは多い。栄吉がよく口にした言葉に、「一人前の人間になるということは、決して金持ちになることでも、栄華を求めることでもなく、人の道にはずれない行いができることだと、中学時代にはっきりと知ることができた」とある。彼はまさにそれを実践した人であった。



芦城公園に立つ栄吉の記念碑

8. 企 業

◇小松の企業

産業機械大手、建設・鉱山機械のシェア世界第2位であるコマツ((株)小松製作所)の主力生産地で、その近郊には関連企業が多く立地しており、いわゆるコマツの企業城下町となっている。コマツ以外にも、コマニー(株)、小松ウオール工業(株)、ジェイ・バス(株)、(株)小松村田製作所などの企業が立地している。また、小松市近隣には、加賀東芝エレクトロニクス(株)、E I Z O(株)をはじめとする関連企業が小松市を含む南加賀地区に集積している。

繊維業では、市とその近隣には、小松マテーレ(株)、帝人フロンティアニッティング(株)、ダウ・東レ(株)など、その関連企業が多く集積している。

小松市とその一帯では、機械工業・繊維業が盛んであり、北陸随一の産業地帯と賞されている。

◇「コマツ（登記社名：(株)小松製作所）」

○創業者 → 竹内明太郎 万延元(1860)年 高知県宿毛市に誕生。

○発祥 → 大正6(1917)年1月、石川県能美郡国府村(現・小松市)で銅山を経営していた竹内鉱業が自家用機械生産のため、同郡小松町の小松駅近傍に「小松鉄工所」を開設。

大正10(1921)年5月13日、小松鉄工所が竹内鉱業から分離独立、現在の登記社名である「小松製作所」に改称し、発足した。初代社長は、白石多士良。

○なぜ小松市なのか→

- ・ 竹内鉱業遊泉寺銅山に近く、施設、物資、人員など相互の便益が保たれる。
- ・ 北陸本線小松駅に隣接し、引き込み線による資材の搬入、製品の輸送が便利である。
- ・ 純朴、質実で、しかも定着力のある地方農村出身者の子弟の採用、およびその育成が期待できる。
- ・ 手取川流域を中心に北陸一帯にわたって、水力電気の開発が有望で、電気製鋼事業に不可欠な、豊富で安価な電力の供給が期待できる。

明太郎が、小松周辺地域における労働力の質の高さ、そして水の豊富さを極めて重要視していたことがうかがえる。

○品質の飛躍的向上

昭和30年代半ば、米国キャタピラー・トラクタ社の日本進出が具体化し、対抗するため短期間で品質を飛躍的に上げる「マルA対策」を実施する。新車開発より難しい目標を短時間で達成するために、トップはJ I S規格を上回る厳しい規格を設け、コスト度外視で開発を進めるよう指示した。「ねじ1本から見直す」「品質は工程で作り込む」など徹底した改良・思想でマルA対策を進めた結果、ユーザからのクレームは激減し会社全体の体質改善につながる効果をもたらした。

○現在の本社 → 〒107-8414 東京都港区赤坂二丁目3番6号コマツビル

○本社移動年 → 昭和26(1951)年8月に本社機能を小松から東京に移転。屋上に巨大ブルドーザがあった通称・コマツビル(平成3(1991)年春にブルドーザを撤去。現在はモニュメントを設置)に移転して営業を始め、油圧ショベルやフォークリフト、ダンプトラックなどの建機製品を次々と手掛けていった。

○油圧ショベル → 「パワーショベル」の商品名で発売されたが、この言葉は今日では油圧ショベルの一般的な呼び名として定着している。



油圧ショベル



ホイールローダ

- ・創立70周年にあたる平成3(1991)年5月、社名表示と呼称が「コマツ」になった。
- ・創立90周年記念事業の一環として、一般の人や子供たちが建設機械に対して親しみを持ってもらえるよう、平成23(2011)年5月、小松工場跡地に「こまつの杜」をオープンさせた。ここには、「コマツウェイ総合研修センター」が建設され、コマツグループ社員のグローバルな人材育成の機能を担っている。また、一般開放エリアとして、旧本社社屋を復元した「わくわくコマツ館」、加賀地方の里山を再現した緑地「げんき里山」、世界最大級のダンプトラック「コマツ930E」の展示場も設けられている。
- ・創立100周年記念事業の一環として、平成29(2017)年から市や商工会議所、コマツ、3地区の町内会(鶴川、遊泉寺、立明寺)などで行く整備事業実行委員会が進めてきた、「遊泉寺銅山ものがたりパーク」が令和3(2021)年5月8日に完成した。産業や文化交流の拠点にするために、建機大手コマツ発祥の地である銅山の歴史を伝える資料館(里山みらい館)や、高さ20m、直径2.5mの大煙突、精錬所跡、堅坑跡、廃鉱を捨てた砂山などの遺構を巡る遊歩道(1.5km)などが整備されている。また、こまつの杜にわくわくコマツ館・わくわくコマツ2号館を「わくわくコマツ歴史館」「わくわくコマツキッズ館」としてリニューアル。新建屋の「わくわくコマツ未来館」では売店も拡張し、新しい体験エリアにした。また、これまで展示してきた世界最大級のダンプトラック「930E」の横に、新たに超大型油圧ショベル「PC4000」を設置された。

主な事業

コマツグループでは主に、建設・鉱山機械、ユーティリティ(小型機械)、林業機械、産業用機械、金融などの事業を展開している。

資本金

連結 686億89百万円(米国会計基準による)

単独 709億円73百万円

コマツグループ

コマツを含む262社(連結対象)で構成されている。

連結子会社数 219社

持分法適用会社数 42社

コマツ(親会社) 1社 合計 262社 [令和2年(2020)年3月31日現在]



「PC4000」 「930E」

◇小松工業団地（面積…73.6ha）

北陸自動車道小松ICから6.5km、片山津ICから3.5kmの近距離にあり、また、小松空港からも3.5kmと交通アクセスにとっても恵まれている。

小松鉄工団地(昭和50年代整備)を始めとして、県土地開発公社による工業用地の造成(昭和60年代)など、県・市が工業立地を推進しており、既に周辺地域を含めて約50社が立地している石川県を代表する工業団地のひとつである。



・ コマニー (株)

設 立 昭和36(1961)年 8月18日

昭和55(1980)年に間仕切業界売上高第1位を達成する。昭和60(1985)年には、デミング賞実施賞 中小企業賞受賞。品質管理のノーベル賞といわれる「デミング賞」を受賞し、業界初の受賞で各方面から高く評価された。

製品ラインナップ

- ・ハイパーパーティション
- ・ローパーパーティション
- ・トイレパーティション
- ・移動パーティション
- ・ドア商品
- ・クリーンルーム

・ 小松ウオール工業(株)

設 立 昭和43(1968)年 1月22日

間仕切製造会社。可動間仕切・固定間仕切・移動間仕切・トイレブース、ロー間仕切等の製造、設計、販売、施工。オフィス向けが主力。

製品ラインナップ

- ・移動間仕切
- ・鋼製軽量 ドア
- ・可動間仕切
- ・ローパーパーティション
- ・内装金属工事
- ・トイレブース
- ・学校用間仕切

・ ダウ・東レ(株) 小松工場

ダウ・シリコーン・ホールディング・ジャパンと東レの合弁会社。ダウ・シリコーン・ホールディング・ジャパンと東レの出資比率は65%と35%である。主な事業として、電子機器、自動車部品、建設資材、化粧品等に用いられるシリコーンの開発、製造及び販売を行なっている。小松工場ではクッションやスキンケア製品など日用品向けのシリコーンを生産している。

製品ラインナップ

- ・建設資材
- ・エレクトロニクス
- ・ライフサイエンス
- ・機能化学品
- ・エンジニアード エラストマー など

◇南部工業団地（面積…40.4ha）

小松市の南に位置し、コマツ栗津工場に隣接している。県道串・加賀線をはじめ、市道松崎・額見線に接し、国道305号線まで1.5Km、北陸自動車道片山津IC、小松IC及び小松空港まで約7kmの好立地にある。

・ジェイ・バス(株)

設 立 平成14(2002)年10月1日

日野・いすゞの国内向けバスの製造、部品供給、およびバスボディの設計・開発。

平成14(2004)年にジェイ・バス株式会社を存続会社とし、ジェイ・バス株式会社・日野車体工業株式会社・いすゞバス製造株式会社を三社合併。

ジェイ・バスのネーミングのコーポレート・アイデンティティは、日野、いすゞ両グループの'Joint'(結合)、日野の'H'、いすゞの'I'を次ぐ'J'(ジェイ・バス)によって'Joyful'(楽しさ)を創造していくこと。

バス利用者の方々、事業者の方々、サプライヤーの方々に「喜び」と「感動」と「未来」をお届けできる高度のバスを提供し、'Japan'(日本)を代表するバスメーカー、多くの皆さんに'Join'(参加)いただき、一緒により良いバスづくりを進められる企業となることを目指している。

◇東部産業振興団地（面積…86.5ha）

小松市の東部国府地区・加賀産業開発道路に面した丘陵地に位置している。総面積約86.5ha(約26万坪)の用地を土地区画整理事業により21世紀に向けて教育・文化・産業の発展はもとより、生活環境と自然環境のバランスのとれた市民の暮らしがより快適に過ごせるような15万都市を目指して造成された振興団地である。

・クマリフト(株)石川工場

設 立 平成6(1994)年

業務用と家庭用エレベーターの製造・開発・メンテナンスを行う。特に、小型荷物の昇降に用いられるダムウェーターで圧倒的シェアを持ち、国内シェアは首位に位置する。

1980年代後期より、老人及び身体障害者向けを目的とした小規模な家庭用エレベーターの開発に力を入れており、この他一軒家の階段のスロープを利用し、椅子に腰を掛けたままで昇降可能な「自由生活」といった移動機器も同社の代表的な製品になっている。

製品ラインナップ

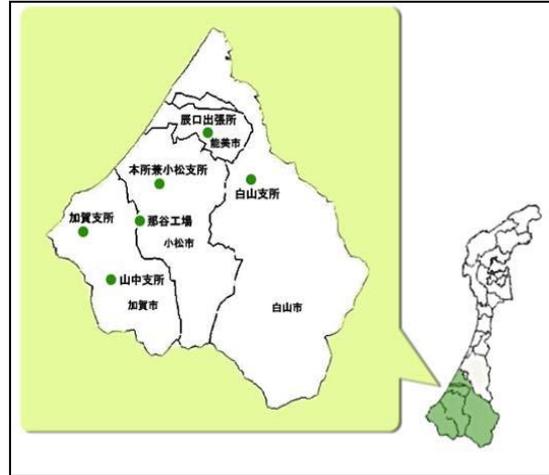
- ・エレベーター
- ・小荷物専用昇降機
- ・搬送機
- ・福祉機器など昇降機

9. 林業

◇かが森林組合

☆発足過程と合併地域

かが森林組合は、石川県南部に位置する加賀市(加賀市森林組合)、旧山中町(山中町森林組合)、小松市(小松市森林組合)、旧辰口町(辰口町森林組合)の4森林組合が広域合併し、平成12(2000)年4月に発足し、更に平成19(2007)年4月には、これまでの当組合管轄区域の東側に隣接する白山森林組合(白山市)と広域合併し、管理区域が県内最大規模となる森林組合が誕生した。合併前の組合は、国による戦後復興期の拡大造林政策を受け、造林事業への積極的な取り組みにより組織・経営基盤の充実を図ってきたが、山村住民の高齢化とあいまって組合員の山離れが進み、間伐、枝打を行わない放置森林が増えてきた。このような状況の中、各組合とも今後、組合員に代わって所有森林の管理や素材生産、販売の必要性を痛感し、平成12(2000)年の合併を機に、地元材を製材・加工する那谷工場を稼働させた。



☆管内の森林の特徴

当森林組合の管内には、面積の約75% (113,975ha←国有林を含む)が森林に覆われている。民有林(86,179ha)は、人工林が約25.2% (21,737ha)である。〈令和元(2019)年3月末現在〉

当組合管内の南加賀地区はスギの優良生産地として知られ、地元品種「日用スギ」が広く分布している。一部では「百年木」と呼ばれる長伐期施業が行われており、スギの美林も多くみられる。山裾の肥沃な土地に人工林が広がっており、手入れが行き届いた人工林は美しい山里の風景を生み出している。

☆取り組み

人工林を中心に本格的な利用期を迎えている管内森林の適切な管理保全と循環利用を推進するために、以下の取り組みを行っている。

- ① 将来にわたって森林の所有界を確定するための境界明確化事業
- ② 森林の健全化と木材利用を推進する集団間伐(利用間伐)事業
- ③ 地元材を市場に安定的に供給するための皆伐・再造林事業
- ④ 林業を安全に効率的に行うためのスマート林業
- ⑤ クマ・イノシシ・シカなど野生獣被害を防止するための緩衝帯整備事業



10. 農 業

◇北陸初の環境王国認定都市・こまつ

環境王国とは農産物の生産に適した自然環境、農業、消費者のバランスが保たれ、35の厳しい審査項目を満たす都市に対し与えられるものです。

小松市は平成23(2013)年10月12日に北陸3県で初となる全国で11番目の環境王国に認定されました。

環境王国こまつは小松市の誇る豊かな^{さとやま}里山・^{さとうみ}里湖の自然文化を保全し、地域を活性化するための取り組みや、安心・安全な農作物の推進、小松市独自の6次産業化商品の開発に力を注いでいます。

◇豊かな自然の恵みを未来へ

★6次産業化の推進

6次産業とは農林水産業者が生産(1次)だけにとどまらず、加工(2次)から販売(3次)までを手掛けることにより、農林水産業の活性化を図る取り組みのことで、それぞれの産業の掛け合わせた数字が6となることから名付けられました。

現在、日本では農山村地域の少子高齢化や過疎化、担い手不足、農林水産物の価格低迷など多くの問題を抱えています。6次産業化の推進は農林水産物の価値の上昇や消費の拡大だけでなく、加工・販売の過程から生じる雇用拡大にも期待が寄せられ、食育の推進や食文化の保全、観光資源によるまちおこしなど地域活性化を図るキーワードとして注目されています。

また、平成22(2010)年4月には、野菜の直売所や、地元産の食材を使った料理を味わうことのできる「道の駅 こまつ木場潟」がオープンし、平成25(2013)年10月には小松市の「食」と「農」の魅力を全国へ発信する新たな拠点として、小松空港内に「空の駅 こまつ」が整備されました。

★イチオシ小松産「こまつもん」

近年、地域の特産物を活かした商品は全国各地で開発され、ご当地グルメなどとして注目されています。

そのため、小松市で生産される作物を用い、地域の特徴を活かした食品を「こまつもんブランド」として認定することで、安全で安心な商品を市内だけでなく、市外にも広く流通させ、観光や物産の振興、農林水産生産者の意欲向上、地域経済の活性化を図っています。



トマトカレー
(農林水産大臣賞受賞)

◇トマトの生産

☆生産量 北陸三県 第1位のトマトについて

真っ赤な色が食卓を賑わす存在感たっぷりのトマト。

小松市は昭和30年代から続くトマトの産地で、北陸三県一の生産量を誇ります。約50戸のトマト農家が栽培し、年間約1,500トンを出荷している。

主な品種は「桃太郎はるか」と「麗容^{れいよう}」。5月初旬から7月までは春トマトを、8月中旬から11月下旬までは夏秋トマトを栽培し、年間約1,050t(令和2(2020)年現在)を県内外に出荷している。



小松とまと

たっぷりと太陽の恵みを受け丹精込めて育てられた小松とまとは、果肉が柔らかく、程よい酸味が特徴。地元の恵み、ぜひ味わってみてください。

◇大麦（六条大麦）

☆県内第1位の生産量

石川県の大麦の生産量は全国第10位(令和元年(2019)年)で、中でも小松市は年間約1,240tを生産する県内最大の産地です。寒冷・乾燥に強い植物で、北陸の地域特性にあった転作作物であることから、普及に繋がったと考えられています。

☆見直される栄養価

これまでは、県内で生産される大麦のほとんどが県外へ出荷され、麦茶や麦ご飯などに使用されてきました。

大麦には精白米の20倍もの食物繊維や、ギャバなどの機能成分も豊富に含まれており、便秘解消や血中コレステロールの低下、糖尿病の予防など、健康に良い様々な効果があると言われています。



大麦を使用したスイーツ

近年の健康志向により、大麦のもつ優れた栄養価が見直され、市内の菓子店や飲食店では大麦を活用した新たな商品開発が行われている。

◇ニンジンの生産

小松市は石川県産のニンジンの約70%を占める産地。

秋冬ニンジンの品種は主に「アロマレッド」と「向陽2号」。甘みが多くて食べやすく、お子様にも大好評。栽培面積は約6.7haでみゆき地区と牧地区の農家が、11月から12月末まで県内や関西方面に出荷している。



秋冬ニンジン(小松産)

◇オリジナルブランド米「蛭米」

「蛭米」とは、蛭が飛び交い、清流が流れる山間地で収穫される栽培地限定(瀬谷・西尾・金野地区)で減農薬・減化学肥料栽培で生産したコシヒカリ。昼夜の寒暖の差で実が引き締まり、食味のあるのが特徴。平成10(1998)年にJ A小松市ブランド米として販売を始め、「ふるさとの味」として大好評のお米。



蛭米コシヒカリ

◇加賀丸いも

★加賀丸いもの歴史と栽培

加賀丸いもは山の芋の一種で、昭和20(1945)年代後半までは石川特産「山の芋」として主に関西方面に出荷されていましたが、その後出荷量の増大にともない、石川特産「加賀丸いも」と名称づけられた。

手取川扇状地の肥沃な土壤に恵まれ、栽培の歴史は100年以上とも言われている。J A小松市管内では板津地区を中心に生産している。丸いも栽培は、1つの種芋から1つしか実らず、春に種芋を植え、出荷するまで1年かかる。大半が手作業ですが、全国に誇る高品質で、小松市の特産物に指定されている。



加賀丸いも

★加賀丸いもの効用

漢方では「山薬」といわれるほど栄養満点な強壯食品。足のむくみや痛み、頻尿、老眼、白内障など老人病の妙薬としても用いられることから、老化防止にも効果が期待できる。

ビタミンではB1が豊富、C、Eを含むが含有量は微量である。ミネラルはカリウムが豊富にあるので、ナトリウムの排泄を促し、血圧を下げる働きを持つ。カロチンやカルシウムを多く含んでいる食品と組み合わせれば理想的なスタミナ食品になる。

こまつたみおもて ◇小松畳表

～「小松畳表」を生み出す、石川県小松市はイ草栽培では北限の地である。～

☆ほかの地域で栽培しているイ草との特徴の違い

畳表の原料となるイ草は暖かい地方で多く栽培されている。石川県では真夏は高温多湿で冬は氷点下にまで下がる気温という厳しい自然の中でイ草は生育している。イ草の苗は、まず畑で育てられ、10月下旬になると田に植え付けられる。そして、苗が幼いまま厳しい冬を迎え、白く冷たい雪に覆われたまま春を待つ。その自然の境遇こそ、硬くて丈夫で、美しい光沢を放つ小松畳表を生み出す原動力となっている。冬期雪の下で育つイ草は、全国では唯一である。



☆小松畳表の魅力

畳表にするときに織り込むイ草の本数が多いので柔らかいふくらみのある畳表になる。畳表の表面がへたってきたら、それを裏返して新しい面を表にして再生することができる。これは柔らかいイ草を使った畳表には、決してできることではない。また、表面が厚く丈夫なことから、暖房器具の使用による傷みが少ないと、積雪地帯を中心に多く使われている。イ草がしっかり育ち表面がむけにくく、2・3年たつと黄金色に変わり天然の光沢を長く保つ。天然泥で染め上げるから体にも安心である。小松畳表はすべての生産者の名前が記入されており、生産者の顔が見え安心して使用できる。

☆小松畳表の伝統と生産量の変化

約370年の伝統を誇る小松市特産の高級畳表で、最盛期の昭和30(1955)年には1,365戸の農家が約300haを栽培している。高度経済成長期には、市内でも「青いダイヤ」と呼ばれ、生産に力が入ったが、中国産イ草の輸出攻撃で価格が低落したほか、住宅の洋風化で需要が減り、令和2(2020)年現在では栽培農家も1戸となり、作付け面積も0.4haにまで落ち込んだ。また、近年ではこれまで受け継がれてきた苗に病害虫が連続し、それも生産量の減少に拍車をかけた要因となった。



小松市に寄贈された茶室の仙叟屋敷および玄庵にも小松畳表は用いられている。

11. 漁業

◇安宅漁港^{ぎょこう}について

- 石川県漁業協同組合 小松支所
- 組合員 38名（正25名、准13名）
- 登録漁船数^{とうろくぎょせんすう} 30隻
- 漁法^{ぎょほう} 刺網、いか釣り、かご漁業、採貝^{さしあみ}
- 水揚げ高(水揚げ量) 40t（39百万円）
- 主要施設 冷蔵施設(2.1t)



平成 25 年 7 月 25 日撮影

（上記データは令和元年12月31日現在）

●安宅漁港は第一種漁港

| | |
|---------|--|
| 第一種漁港 | その利用範囲が地元の漁業を主とするもの |
| 第二種漁港 | その利用範囲が第一種漁港より広く、第三種漁港 ^{ぞく} に属さないもの |
| 第三種漁港 | その利用範囲が全国的なもの |
| 第四種漁港 | 離島 ^{りとう} その他辺地 ^{へんち} にあつて、漁場の開発 ^{かいはつ} 又は漁船の避難 ^{ひなんじょう} 上特に必要なもの |
| 特定第三種漁港 | 第三種漁港のうち水産業の振興 ^{しんこうじょう} 上特に重要な漁港 ^{せいいい} で、政令で定めるもの |

●安宅漁港は第九管区海上保安本部管轄

第九管区海上保安本部は、新潟県、富山県、石川県の総延長約1280 kmの沿岸とその沖合海域の日本海を管轄している。



第九管区の担当水域

みなみかがこうせついちば
◇南加賀公設市場について

| | |
|--------------|--|
| 名 称 | 南加賀公設地方卸売市場 <small>おろしうり</small> |
| 所 在 地 | 石川県小松市本江町ホ1番地 |
| 面 積 | 約90,000平方メートル |
| 開 場 | 昭和58(1983)年10月28日 |
| 業 務 開 始 | 青 果 部 昭和58年11月 1 日 水産物部 昭和58年11月14日 |
| 取 扱 品 目 | 青 果 部 野菜、果実及びこれらの加工品並びに花類並びに規則で定めるその他の食料品 水産物部 生鮮水産物及びその加工品並びに規則で定めるその他の食料品 <small>さだ</small> |
| 供 給 圏 人 口 | 229,106人(令和3年1月1日現在の供給圏域人口) <small>きょうきゅうけんいき</small> |



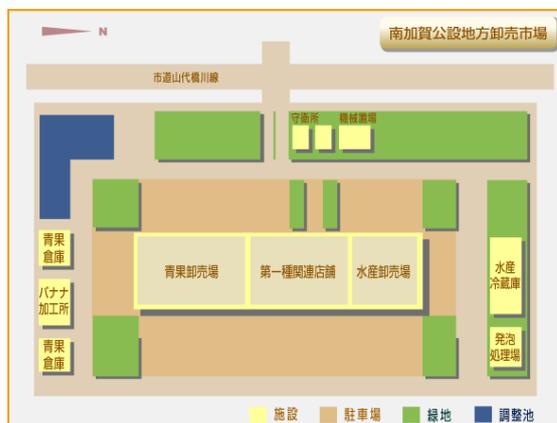
正面入り口



加工所



冷蔵庫



配置図

12. 運 輸

◇小松空港

☆概要

昭和18(1943)年、建設を開始。昭和19(1944)年11月15日に滑走路が完成し、小松飛行場が誕生した。昭和33(1958)2月に米軍の接收が解除され、昭和35(1960)年4月には航空自衛隊のジェット基地に決定し、滑走路、エプロン等の設備が開始された。昭和36(1961)年4月に整備工事が完了し、同年12月、航空法第56条の5に基づく『公共用施設』の指定がなされた。



航空自衛隊小松基地(防衛省)と民間航空(国土交通省(大阪航空局))が共同管理している共用飛行場で、民間の施設は通称として小松空港と呼ばれている。小松市、金沢市、福井市をはじめ、石川県南部(加賀地方)および福井県北部(嶺北地方)の各地へのアクセス拠点となる空港。滑走路を航空自衛隊小松基地と民間機が共用している。滑走路の両側に誘導路があり、山側を航空自衛隊が、海側を民間航空が利用している。民間航空の定期便としてボーイング747クラスの離着陸が可能な滑走路がある北陸地方で最大規模の空港。昭和19(1944)年に旧日本海軍基地としてできたのが由来。また、平成18(2006)年に貨物便を想定した欧米との直行便を就航可能にするために、嵩上げされた新滑走路(10cm増加)の運用を開始した。

☆沿革

- 昭和19(1944)年11月 2本の滑走路完成(東西1500m×100mと南北1700m×100m)
海軍攻撃隊2個中隊常駐
- 昭和20(1945)年8月 米軍接收、補助レーダー基地となる
- 昭和33(1958)年2月 米軍接收解除(全面解除は同年8月)、航空自衛隊小松派遣隊駐屯
- 昭和35(1960)年10月 北陸エアターミナルビル(株)創業
- 昭和36(1961)年2月 航空自衛隊小松基地開設
- 12月 小松飛行場を航空法第56条の5に基づく「公共用の施設」として告示
(正式に自衛隊と民間航空との共用飛行場となる 告示日12/18、供用開始12/20)
- 昭和38(1963)年7月 小松～東京定期便就航
- 昭和39(1964)年9月 F-104J機導入のための滑走路延長工事完了。滑走路2,700mとなる
- 昭和42(1967)年6月 小松～札幌定期便就航
- 昭和48(1973)年11月 小松～東京間にB737就航(ジェット化)
- 昭和52(1977)年10月 運輸省において、「小松飛行場民航地域整備基本計画」策定
- 昭和53(1978)年3月 小松～福岡定期便就航
- 昭和54(1979)年7月 検疫飛行場の指定。新潟検疫所伏木富山支所小松空港出張所開設
- 昭和54(1979)年12月 新潟～小松～ソウル国際定期便就航
税関空港、動物の輸入場所及び植物の輸入場所の指定
- 昭和55(1980)年4月 小松～東京間にB747SR(スーパージャンボ)就航

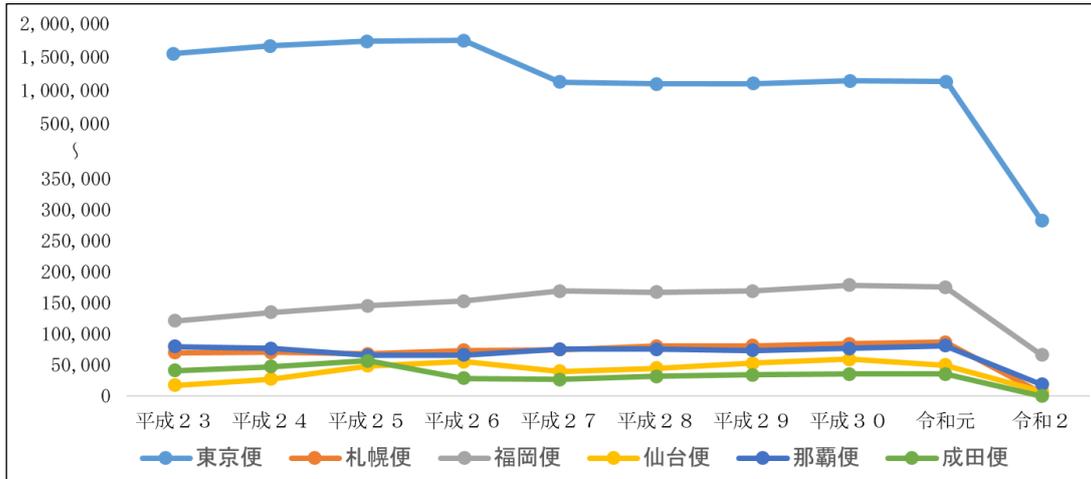
- ・昭和56(1981)年 1月 出入国港の指定
9月 国内線新旅客ターミナルビル完成
- ・昭和59(1984)年 3月 国際線新旅客ターミナルビル完成
7月 小松～仙台定期便就航
- ・昭和63(1988)年 2月 成田～小松～ソウル便就航
- ・平成3(1991)年 6月 小松～那覇定期便就航
- ・平成6(1994)年 3月 北陸国際航空貨物ターミナル(株)(H I A C T)設立
7月 小松～ルクセンブルク国際貨物定期便就航(カーゴルックス航空)
12月 輸入促進地域(F A Z)の指定を受ける
- ・平成7(1995)年10月 Air-NACCSの導入
- ・平成8(1996)年 4月 国際線旅客ターミナルビル増改築工事竣工
- ・平成13(2001)年 3月 輸入促進地域(F A Z)変更承認
- ・平成14(2002)年 6月 国際貨物ターミナル新築工事竣工
- ・平成16(2004)年 4月 新管制塔運用開始
8月 小松～ソウル国際定期便(日本航空と大韓航空の共同運航開始)
11月 小松～成田定期便就航
小松～上海国際定期便就航(中国東方航空)
- ・平成17(2005)年 3月 滑走路嵩上げ工事に伴う仮設滑走路供用開始(旧滑走路閉鎖)
輸入促進地域(F A Z)目標年度終了
- ・平成18(2006)年 3月 小松～ソウル国際定期便就航(大韓航空)
12月 滑走路嵩上げ工事完成に伴い本滑走路供用開始(仮設滑走路閉鎖)
- ・平成19(2007)年 5月 新国内貨物上屋完成。国際貨物上屋と駐機スポット間の距離 短縮
12月 エプロンの拡張工事完成(駐機場増設、5→6スポット)
- ・平成20(2008)年 6月 小松～台北国際定期便就航(エバー航空)
- ・平成30(2018)年 1月 小松～アゼルバイジャン国際貨物定期便就航(シルクウェイ・ウエスト航空)
- ・平成31(2019)年 4月 小松～香港国際定期便(キャセイパシフィック航空) (～10月)

☆運航路線(定期便) … 令和3(2021)年4月1日現在

・国内線(旅客)

| 路線名 | 便数 | 距離(km) | 路線開設 | 備考 |
|------------|--------|--------|------------|------------|
| 小松－東京(羽田) | 10往復/日 | 528 | S38. 7. 1 | |
| 小松－札幌(新千歳) | 1往復/日 | 959 | S42. 6. 12 | |
| 小松－福岡 | 4往復/日 | 880 | S53. 3. 1 | |
| 小松－那覇 | 1往復/日 | 1,577 | H 3. 6. 1 | |
| 小松－仙台 | 1往復/日 | 601 | S59. 7. 30 | R2. 10～運休中 |
| 小松－成田 | 1往復/日 | 645 | H16. 11. 1 | R2. 10～運休中 |

・10年間の国内線利用実績(旅客)



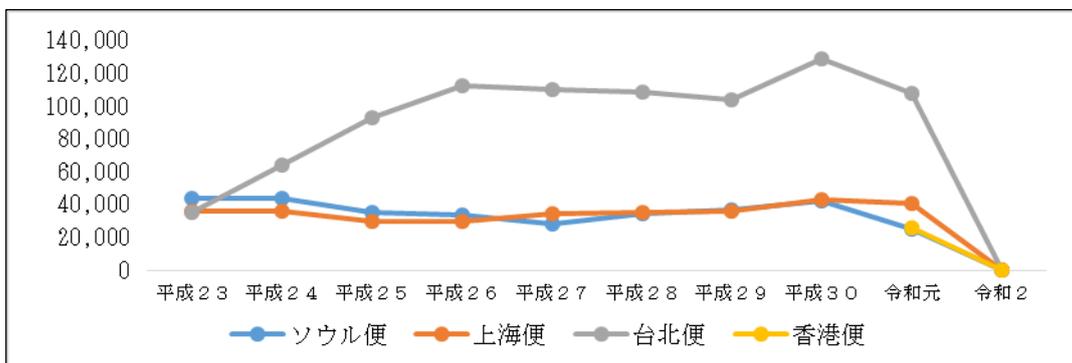
単位:人

| | 平成23 | 平成24 | 平成25 | 平成26 | 平成27 | 平成28 | 平成29 | 平成30 | 令和元 | 令和2 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 東京便 | 1,547,767 | 1,669,447 | 1,738,035 | 1,749,661 | 1,124,107 | 1,093,316 | 1,097,812 | 1,144,115 | 1,132,099 | 281,643 |
| 札幌便 | 69,935 | 70,386 | 67,883 | 73,308 | 74,700 | 79,999 | 80,799 | 84,115 | 86,446 | 5,179 |
| 福岡便 | 120,784 | 134,489 | 145,240 | 152,573 | 169,091 | 166,818 | 169,102 | 178,398 | 174,844 | 65,882 |
| 仙台便 | 17,306 | 27,378 | 48,404 | 55,633 | 39,819 | 44,840 | 53,223 | 59,158 | 49,990 | 7,500 |
| 那覇便 | 79,849 | 76,256 | 65,186 | 66,231 | 75,244 | 75,143 | 73,286 | 76,561 | 80,814 | 18,438 |
| 成田便 | 41,043 | 47,472 | 56,620 | 28,620 | 26,676 | 31,394 | 34,281 | 35,328 | 35,295 | 44 |

・国際線(旅客)

| 路線名 | 便数 | 距離(km) | 路線開設 | 備考 |
|------------|-------|--------|-------------|------------|
| 小松ーソウル(仁川) | 3往復/週 | 880 | S54. 12. 12 | |
| 小松ー上海(浦東) | 6往復/週 | 1,524 | H16. 11. 25 | |
| 小松ー台北(桃園) | 7往復/週 | 1,905 | H20. 6. 1 | |
| 小松ー香港 | 2往復/週 | 2,654 | H31. 4. 3 | R2夏ダイヤ~休止中 |

・10年間の国際線利用実績(旅客)



単位:人

| | 平成23 | 平成24 | 平成25 | 平成26 | 平成27 | 平成28 | 平成29 | 平成30 | 令和元 | 令和2 |
|------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|
| ソウル便 | 43,455 | 43,926 | 35,275 | 33,577 | 27,868 | 34,666 | 36,624 | 41,892 | 24,972 | 0 |
| 上海便 | 35,578 | 35,936 | 29,709 | 30,008 | 34,385 | 35,093 | 35,787 | 42,963 | 40,295 | 0 |
| 台北便 | 35,513 | 64,212 | 93,159 | 112,493 | 110,202 | 108,412 | 104,178 | 128,773 | 107,754 | 0 |
| 香港便 | | | | | | | | | 25,464 | 0 |

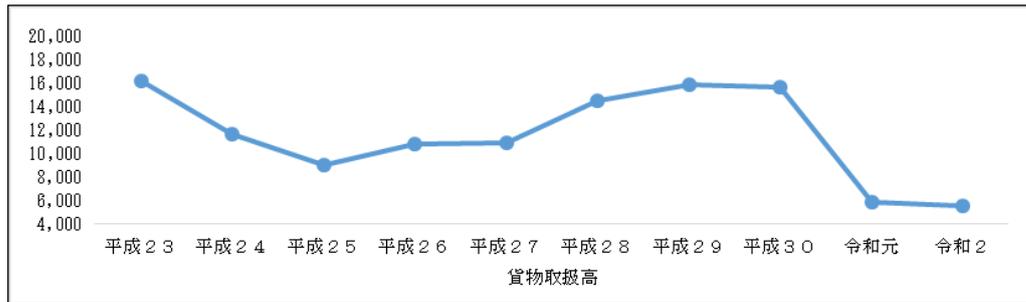
・国際線(貨物)

| 路線名 | 便数 | 距離(km) | 路線開設 | 備考 |
|-------------|----------------------|--------------------------|------------|---------------|
| 小松ールクセンブルク | 4往復/週 (うち3便は北米経由) | ※1 10,293 ※2 (17,104) | H 6. 7. 2 | |
| 小松ーアゼルバイジャン | 2往復/週 | 7,308 | H28. 1. 24 | R元. 6. 30~運休中 |

※1 小松ー仁川ールクセンブルクの距離

※2 小松ーシカゴールクセンブルクの距離

・10年間の貨物取扱高



単位: t

| | 平成23 | 平成24 | 平成25 | 平成26 | 平成27 | 平成28 | 平成29 | 平成30 | 令和元 | 令和2 |
|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 貨物取扱高 | 16,140 | 11,584 | 9,004 | 10,802 | 10,859 | 14,453 | 15,792 | 15,557 | 5,898 | 5,574 |

☆施設規模等

| | |
|-----------------|--|
| 開港日 | 昭和19(1944)年11月15日 |
| 種別 | 共用空港 |
| 設置管理者 | 防衛大臣 |
| 標点 | 北緯 36度23分38秒 東経136度24分27秒 |
| 標高 | 6.7m |
| 空港面積 | 4,384,792㎡ (国土交通省管理 474,591㎡ 防衛省管理 3,910,201㎡) |
| 3レター/4レター | KMQ / R J N K |
| 運用時間 | 7:30~22:30 (15時間) |
| 滑走路 | 2,700m × 45m オーバーラン600m |
| 誘導路 | 2,700m × 23m |
| 乗入航空会社 (定期便) | 日本航空(JAL) 全日本空輸(ANA) 日本トランスオーシャン航空(JTA) オリエンタルエアブリッジ(ORC) 大韓航空(KAL) 中国東方航空(CES) エバー航空(EVA) タイガーエア台湾(TTW) キャセイパシフィック航空(CPA) カーゴルックス航空(CLX) シルクウェイ・ウエスト航空(AZG) |

☆小松空港の良いところ

- ・大型ジェット機の就航が可能 …… 小松空港は航空自衛隊と民間航空が共用する飛行場で、北陸地域で随一、大型ジェット機の就航が可能な3,000メートル級の滑走路を持っている。
- ・北陸の玄関口 …… 北陸地域の中心部にあり、北陸自動車道など高速道路網の整備がなされ、東京から6時間、大阪から4時間、名古屋から約3時間の位置にあり、関東・中京・関西の3大経済圏を楽々とサービス範囲内に取り込んでいる。しかし、北陸新幹線が敦賀延伸によって首都圏からの需要がますます減少し、厳しい状況になるかもしれないが、北陸新幹線のバイパス路線として、今後も重要な役割が残る。また、小松空港は北陸地方にとって、羽田空港で乗り継ぐことで世界への玄関口となる。これからも首都圏と北陸を結ぶ路線として活躍が見込まれる。
- ・低経費 …… 運送業者側からの利点としては、成田・関空に比べ、着陸料が安く、他の経費も大都市周辺よりも安い。

☆小松空港利用者アンケート調査 (H30 10/28～11/18日)

- ・小松空港利用者の住所ベスト3は、1位 北陸3県(45.3%)、2位 首都圏(28.8%)、3位 九州(沖縄含む)(9.7%)である。
- ・小松空港利用者の石川県内住所ベスト3は、1位 金沢市(40.3%)、2位 小松市(19.7%)、3位 白山市・野々市市(14.1%)である。
- ・小松空港利用目的ベスト3は、1位 観光(40.8%)、2位 ビジネス(39.3%)、3位 帰省(5.6%)である。(その他を除く)
- ・小松空港からの訪問先ベスト3は、1位 金沢市(52.4%)、2位 小松市(20.2%)、3位 福井県(14.1%)である。(北陸3県居住者以外の回答)
- ・旅行の交通手段ベスト3は、1位 往復とも小松空港(81.5%)、2位 片道は鉄道(6.7%)、3位 片道は他空港(5.5%)である。
- ・小松空港の航空ネットワークについて、最も望まれることは(国内線)では、1位 特に希望はない(58.3%)、2位 次の方面への直行便を開設してほしい(11.0%)、3位 乗り継ぎで行ける地域を増やしてほしい(6.2%)である。(無回答を除く)

☆9月20日は『空の日』

空の日とは? …… 起源は、我が国の最初の動力飛行が、代々木練兵場で披露となった明治43(1910)年から30周年にあたる昭和15(1940)年制定の『航空日』にさかのぼる。

民間航空再開40周年を迎えた平成4(1992)年に、「広く国民の皆様に航空に対する理解と関心を高めていただく」という趣旨で昭和15年に制定された『航空日』は、『空の日』(9月20日)と改称され、併せて『空の旬間』(9月20日～9月30日)が設けられた。



くにまるくん

空の日のシンボルキャラクターの名前は『くにまる』くんです。
平成4年に『空の日』・『空の旬間』を設けた際に誕生し、『空の日』である9月20日の『9(く)2(に)0(まる)』から命名されました。
その躍動的な姿は、地球規模での航空による人物及び文化の交流を表しています。
☆もっと感動、空はフロンティア☆

☆小松空港のキャラクター紹介

- ・小松空港のイメージキャラクター「こまQ」。
- ・義経と弁慶の衣装を着て、安宅の関とも関連付けている。
- ・空港コードKMQ をもとに名付けられている。



こまQ

☆小松基地航空祭

- ・小松空港に隣接する航空自衛隊小松基地では、毎年航空祭を開催している。地域住民との交流をはかるとともに、基地への理解を深めてもらうという趣旨もある。



- ・小松空港や小松基地での写真。航空祭での盛況ぶりが伺える。



- ・小松空港の将来イメージについて
 - ①空港アクセス
 - ②滑走路、エプロン
 - ③ターミナルビル
 - ④路線(国内線、国際線)
 - ⑤利用目的(ビジネス、観光、貨物)
- ・航空貨物について(他空港と比較しての優位性)

◇トラック

- ・加南トラック事業協同組合（事務所・・・小松市長田町ロ116番地）

小松市に拠点を置き、組合員の総力を結集した「物流の総合デパート」として、あらゆるニーズに応える物流関連サービスを展開している。登録されている運輸会社は12社(令和2(2020)年現在)である。運輸物で、一番多いのは、「建設機械及び部品」である。

◇市内路線バス

- ・北鉄加賀バス株式会社（小松市鶴ヶ島町8番地1）

市内循環線(北コース・南コース)、空港連絡線の他、路線バス(12路線)を運行。

- ・加賀白山バス株式会社（白山市安養寺町二30番地）

佐野線のみ運行。

◇市内タクシー

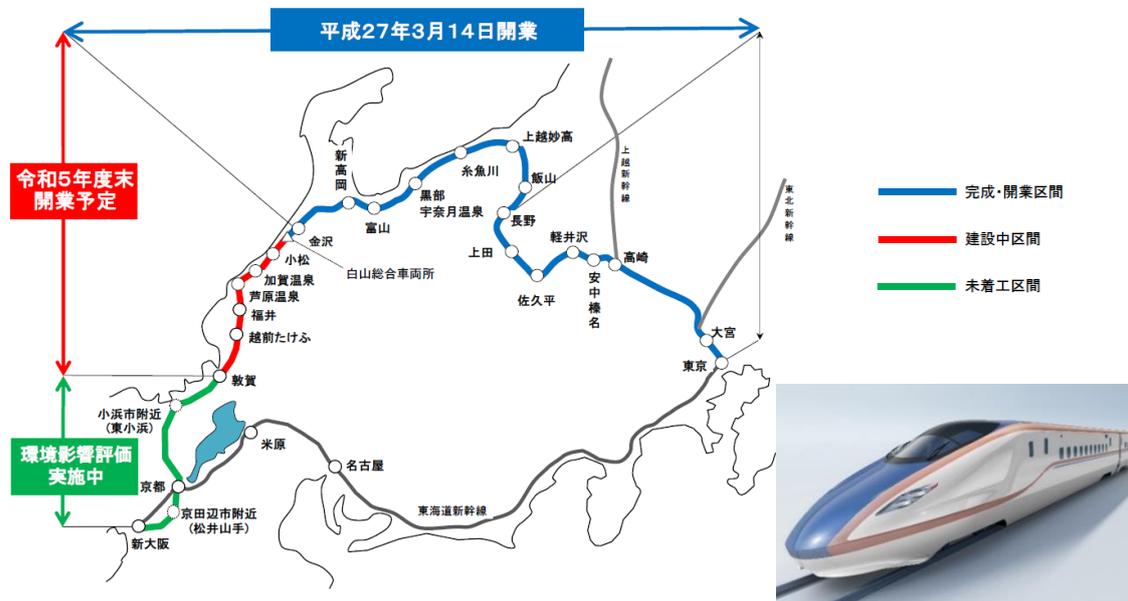
- ・小松市内のタクシー会社は10社(営業所含め)である。

◇北陸新幹線

北陸新幹線は昭和47(1972)年に、全国新幹線鉄道整備法第4条第1項の規定による『建設を開始すべき新幹線鉄道の路線を定める基本計画』により公示され、昭和48(1973)年11月13日に整備計画が決定された5路線(いわゆる整備新幹線)の路線の一つ。太平洋側では東海地震等の発生も予測され、北陸地域を經由して関東・関西を結ぶ路線として建設が計画された。

東海道新幹線が年々輸送量の増大、また全線に渡って施設の老朽化が進行しており、その代替補完機能の確保するためにも、北陸新幹線の大阪までのフル規格による全線整備が必要である。

平成9(1997)年に高崎・長野間が開業し、続いて平成27(2015)年3月には長野・金沢間が開業しました。金沢-敦賀間は平成24(2012)年着工され、令和4(2022)年度末に開業する予定であったが、令和2(2020)年11月になって国土交通省は工事の遅れから1年半程度の開業延期が必要と「与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム(与党PT)」の会合で報告し、令和3(2021)年3月31日に令和5(2023)年度末への延期について国土交通省が認可した。今後、さらなる工期短縮とコスト縮減について改めて検討されている。



- ・整備区間 東京－大阪（東京－高崎間は上越新幹線と共用）
- ・車 両 E 7 系(JR東日本所有車)・W 7 系(JR西日本所有車)
- ・最高速度 260km/h
- ・総延長 約700km
- ・主な経過地 長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県

敦賀 - 新大阪間

平成28(2016)年12月、政府与党の整備新幹線建設推進プロジェクトチーム(与党PT)は敦賀駅から西進して福井県小浜市を經由、そこから南下して京都駅につなぐ「小浜・京都ルート」を正式採用した。

京都－新大阪間のルートについては、平成29(2017)年3月に、JR片町線(学研都市線)、松井山手駅(京田辺市)付近に中間駅を設ける「南回り案」を正式採用した。

ウィキペディア (Wikipedia) 引用

☆北陸新幹線の効果

・所要時間の短縮

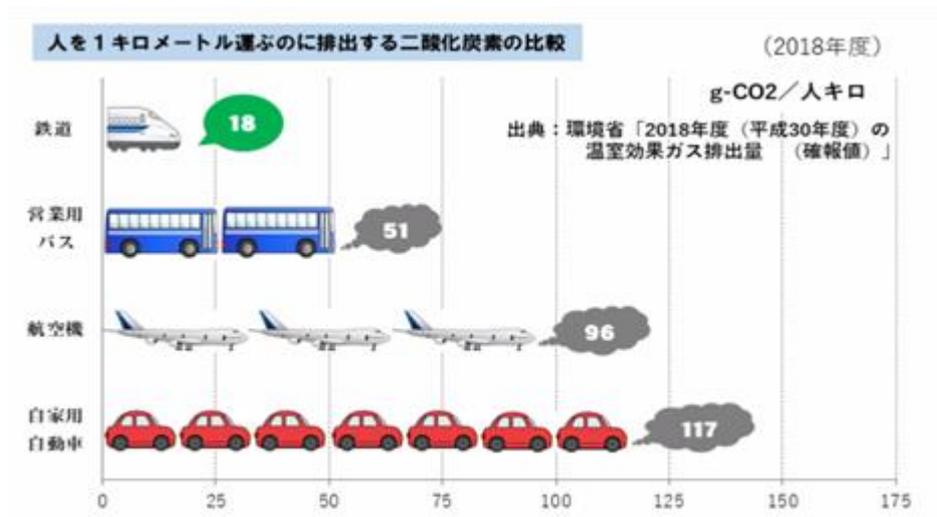
■東京—金沢間の所要時間（長野—金沢間開業後）

| | | | |
|-----|---|---------|----------------------|
| 現行 |  | 3時間50分 | 乗換1回(越後湯沢駅) |
| 新幹線 |  | 2時間27分 | 乗換0回 |
| 飛行機 |  | 約3時間00分 | 乗換3回(浜松町駅、羽田空港、小松空港) |

■東京—福井間の所要時間（金沢—敦賀間開業後）

| | | | |
|-----|---|---------|----------------------|
| 現行 |  | 3時間25分 | 乗換1回(米原駅) |
| 新幹線 |  | 2時間53分 | 乗換0回 |
| 飛行機 |  | 約3時間20分 | 乗換3回(浜松町駅、羽田空港、小松空港) |

・環境に優しい乗物(1人を1km運ぶのに輩出する二酸化炭素の比較 単位:g-CO₂/人キロ)



<http://www.pref.ishikawa.jp/shink/zensen/about/index.html>

・運行体系の概要と列車名

北陸新幹線では、次の4つのタイプの列車が運行されている。

【かがやき】 東京—金沢駅間直通列車（停車駅を限定する速達タイプ）

名称選定理由：輝く光がスピード感と明るく伸びていく未来をイメージさせるため

【はくたか】 東京—金沢駅間直通列車（多くの駅に停車して運行する停車タイプ）

名称選定理由：スピード感があり、首都圏と北陸をつなぐ列車として親しまれているため

【つるぎ】 富山—金沢駅間運転列車（シャトルタイプ）

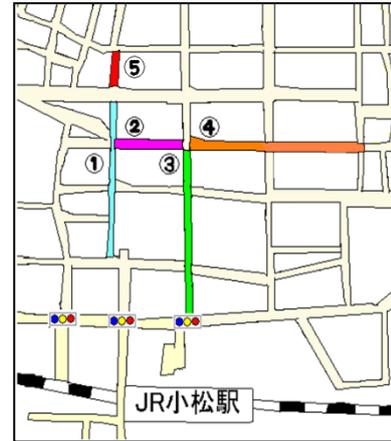
名称選定理由：かつて北陸—関西を結んだ列車として馴染み深いため

【あさま】 東京—長野駅間運転列車（現 長野新幹線タイプ）

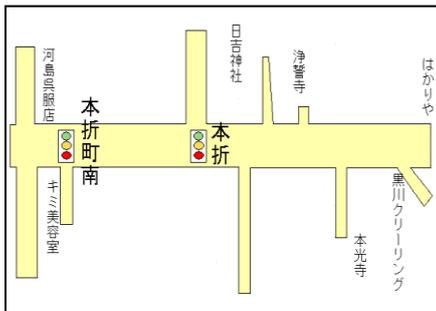
名称選定理由：長野への新幹線として親しみやすくわかりやすいため

13. 商店街

- 駅前れんが花道通り商店会●：図③
 (別名：レンガ通り) 愛称：れんが 花道通り
- 八日市商店街●：図④ 愛称：八の市 曳山通り
- 三日市商店街●：図② 愛称：三の市 朱門通り
- 中央通り商店街●：図① 愛称：猫橋 飴屋通り
- 猫の御坊通り商店会●：図⑤



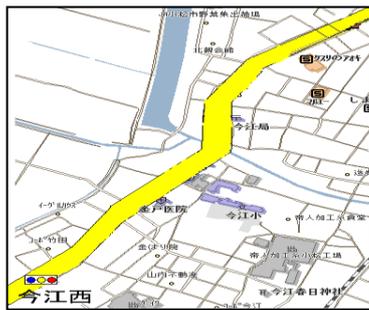
●本折商店街●



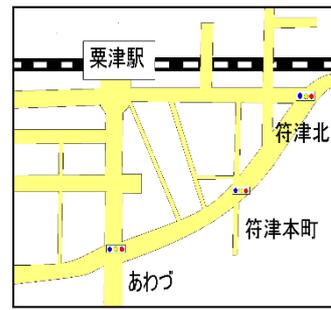
●ミレニアム商店会●



●今江商店会●



●粟津駅前商工会●



●コミュニティショッピングプラザ小松●



14. こまつもんブランド

◇こまつもんブランドとは

地産地消と6次産業化の推進を目的に、平成26(2014)年7月に認定制度を開始。環境王国こまつの「安全・安心・おいしい」自慢の農産物を活用して、その特色を活かして開発された商品を「こまつもんブランド」として認定することで、地産農産物の利用拡大と環境王国こまつのイメージアップを図っている。



◇こまつもんブランド認定商品

令和3(2021)年3月末日現在、127商品が認定されている。

◇こまつもんゴールド認定商品とは

環境王国こまつの「安全・安心・おいしい」農林水産物の特色を活かして開発された「こまつもんブランド」商品のうち、特に優れた商品を「こまつもんゴールド」として認定している。

「こまつもんゴールド」はこまつもんブランド認定審査会によって、「小松らしさ」などにより審査されている。



◇こまつもんゴールド認定

令和3(2021)年3月末日現在、22商品が認定されている。

| 認定番号 | 商品名 | 認定事業者 |
|------|----------------------|------------|
| 1 | マイルドトマトカレー | 小松市農業協同組合 |
| 2 | 大麦パウム | 株式会社レグレット |
| 3 | 六さん健康おにぎり | 道の駅こまつ木場潟 |
| 4 | 純米自然酒 蜩舞 | 東酒造株式会社 |
| 5 | 農家まりちゃんの手作りトマトジャム | 有限会社まるしょう |
| 6 | 小松うどん今昔 綸子(りんず) | 株式会社中石食品工業 |
| 7 | 安宅乃関所寿司 | 株式会社米八 |
| 8 | カブッキーサクサク最中 | 山上福寿堂 |
| 9 | 加賀奈良漬 | 株式会社あきや |
| 10 | 丸粒こまつむぎ茶 | 小松市農業協同組合 |
| 11 | えくぼ | 株式会社松葉屋 |
| 12 | 小松産とまとの大福 | 菓子司 河田ふたば |
| 13 | 神泉 特別純米 | 東酒造株式会社 |
| 14 | しっとり大麦ケーキ | 山上福寿堂 |
| 15 | パウムラスク 石物語 | 株式会社レグレット |
| 16 | 小松さんちのトマトマンゴージュレ | 株式会社レグレット |
| 17 | ムギムギシリアル | あんずの木 |
| 18 | 大麦味噌 | 山木食品工業株式会社 |
| 19 | 小松うどん生つつみ(常温) | 中石食品工業株式会社 |
| 20 | こまつ石物語 | 山上福寿堂 |
| 21 | 能登熟成豚 こまつ大麦味噌漬け | 中出精肉店 |
| 22 | 骨のあるチーズDeepSmokeプレーン | 株式会社ももい |

参考文献一覧

人物紹介

- ・地域教材作成研究会『ふるさと小松の人とところ』（小松市教育センター、2006年3月）

企業 ・ <https://www.home.komatsu.jp/> ・ <http://www.komatsuwall.co.jp/>

・ <http://www.comany.co.jp/> ・ <https://www.jbus.co.jp/>

農業 ・ <http://www.hokurikumeihin.com/negami/setumei.html>

・ <http://www.plaza255.com/ito/page01.html>

漁業 ・ <http://www.minamikaga.or.jp/market/profile/index.html>

運輸 ・ http://www.pref.ishikawa.jp/k_air/index_j.html

・ http://www.hokkoku.co.jp/_today/H20050211002.htm

・ http://www.pref.ishikawa.jp/k_air/hiact.html

・ <http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/topic/920sky.htm>

・ <http://www.pahrr.mlit.go.jp/news/20020819/contents09.htm>

・ <http://www.dii.jda.go.jp/asdf/komatsu/index2.html>

・ <http://www.city.komatsu.ishikawa.jp/>

・ <http://www.pref.ishikawa.jp/>

・ <http://www.d2.doin.ne.jp/~khnet19/kmq.htm>

・ http://www2.icnet.or.jp/~isikaren/kumiai_in_isikawarikujo.html

・ <http://www2.icnet.or.jp/~Ktk23/>

・ <http://www.komatsubus.jp>

・ <http://www.yahoo.co.jp/r/pn>

・ <http://www.yahoo.co.jp/r/pn>

北陸新幹線 ・ <http://www.pref.ishikawa.jp/index.html>

コマツ ・ <https://home.komatsu.jp/company/profile/>